



第7回 自分が欲しいキーボードをつくらう

自作キーボードとは、自分で部品を選んで組み立てたキーボードを指す。キーボードの基板を入手し、そこにキースイッチやマイコンボードなどの電子部品をはんだ付けしてつくる。自作キーボードの魅力は、その特徴的な物理配列にある。市販のキーボードにはないような多様性がある。

私もその魅力にはまった1人である。左右が分離しているキーボードを見つけたときに、これだと思った。ロボットアニメの操縦席のように、右手と左手を別々にして計算機を操る、そんな空想をしてしまった。そこで、海外のサイトからキーボードキットと必要なパーツを取り寄せ、初めての自作キーボードを組み立てた。

すると不思議なもので、別の配列を試してみたくなる。違ったキースイッチを試してみたくなる。どんどんキーボードが増えていくのである。限界で「沼にはまる」と呼ばれている現象である。

◆自作キーボードを入手する

元々日本での自作キーボードコミュニティは、海外のキーボードキットを個人輸入するところから始まった。そのうち、自分たちが欲しいキーボードを設計するようになり、独自の進化を遂げつつある。

その中心に居るのが秋葉原に店舗を構える遊舎工房^{☆1}である。自作キーボードキットを入手するのであれば、ここで購入するのが早い。その他、同人ハードウェアとしてBOOTHなどのオンラインマーケットプレイスでも販売がされている。

まずはキットを選択しよう。自作キーボードには、コンパクトなキーボードが多い。数字キーの行を省略しているものもある。また、標準的なキーボードのように行方向にキーをずらしているものではなく、格子状に配列されているもの、列方向に配置がずれているものなどが存在する。好みのものを選ぼう。

次は、キースイッチだ。キースイッチはCherry MX 互換のものが主流である。打鍵感がスムーズな

リニアタイプ、押した感触のあるタクタイルタイプなどがある。背の低いロープロファイルキースイッチもあるが、これはキットで対応している必要がある。

キーキャップも忘れてはならない。自作キーボードの配列は標準的なものと異なるので、キーセットに必要なキーがすべて含まれるかどうか確かめたい。その他、必要となるものについてはキットの説明書に書いてある。

キットを組み立てるにあたっては、はんだ付けが必要だ。ハードルが高いという声もあるだろう。説明書を熟読し、手順に従うことが肝要だ。苦勞の末に組み立てた自分だけのキーボードを使うのは格別の気分だ。ぜひ挑戦してほしい。

◆キーボードを設計するという手もある

キットを組み立てるだけでは飽き足らないのであれば、自分自身でキーボードを設計することもできる。これぞ真の自作キーボードである。私自身も、日常的に利用できる最小限のキーレイアウトを追求したNomu30やプログラマに人気のキー配列を分割したChoco60などのキーボードを設計している。

自作キーボードでは数百円で入手できるPro Microというマイコンボードを利用するのが一般的だ。プリント基板もオンラインで発注をすれば数千円で製造ができる。設計についてはfoostan著『自作キーボード設計入門』^{☆2}に詳しいので、そちらを参照されたい。

(2020年1月27日受付)

☆2 <https://booth.pm/ja/items/1049300>



図-1
私が設計した
Choco60(奥)と
Nomu30(手前)

☆1 <https://yushakobo.jp/>

※紹介する商品と著者に利益相反がないことを、編集部で確認しております。